

令和5年10月30日

西部農林水産振興センター 邑智農業普及部

標 題 県内で初のさつまいも収穫！ — 楽天農業（株） 邑南町での5ヶ月 —

(ダイジェスト)

昨年12月に県内関係機関と「連携協定」を締結した楽天農業（株）が、10月5日から14日にかけて邑南町内で「さつまいも」の初収穫を行いました。

収穫後の保存方法や収穫作業体制の見直しなどの課題もありますが、大きな問題もなく無事に実りの秋を迎えられました。

2022年12月に楽天農業（株）（代表：遠藤 忍代表取締役、本社：愛媛県大洲市）は、島根県・JA・県西部9市町と有機野菜の産地づくりに関する「連携協定」を締結しました。今後、邑南町で21ha、大田市で7ha、浜田市で8haの、有機農産物の作付けが計画されていますが、その先駆けとして、邑南町田ノ原地区の有機JAS認証農地1.6haで「さつまいも」の定植が6月下旬に行われました。

さつまいもに甚大な被害をもたらす「基腐（もとぐされ）病」が全国各地で発生しており、その罹病・被害が懸念されましたが、定植以降、定期的な巡回による生育確認とその状況を撮影して関係者で画像共有を行うことで、病虫害の未然防止と情報共有を図ることができました。

8月中旬には有害獣による食害を受けたものの、関係機関と侵入路の確認など現地点検を行うとともに、地元猟友会と連携することで獣害対策の体制を整え、その後の被害を抑えることができた結果、約20tを収穫することができました。

収穫されたさつまいもは、有機JAS規格品として、青果品での販売や、冷凍焼芋等に加工・販売される予定です。

一方、収穫後の保存性を高める処理方法（キュアリング）について、既存施設を活用した方法の検討など新たな課題も出てきましたが、農業技術センターや施設建設業者等と連携し、解決したいと考えます。

来年からは「有機ブロッコリー」の栽培も計画されており、作型や品種の選定、種苗の供給体制など課題は山積していますが、栽培開始に向けて関係機関を挙げて支援していきたいと考えます。

※基腐病＝茎が地際部から黒変し、イモが腐る病気



8月中旬 有害獣の侵入、食害状況



10月上旬 収穫風景